

期」、10位「聴力」となっている。

指導者及び新人におけるアセスメント視点の優先順位に関する特徴は(表3-2-28)によると、「耳の疾患、傷、痛み」、「生活習慣」、「認知機能(失行、失認、実行機能障害、理解力)」、「当該行為に関する経験」、「職員の対応、声かけ」、「性格」「当該行為の好き嫌い」、「当該行為の開始時期」、「介護者との関係」、「認知症の原因疾患、種類」、「当該行為時の様子」、「健康状態、疾患」、「日常の生活状況」、「羞恥心」はほぼ共通の重要視点である事が示された。

特に指導者の視点として重要な項目は「聴力」、「当該行為の習慣」、「当該行為の方法」、「耳掃除の道具」であり新人よりも優先順位が6位以上上位であり、重要視している事が明らかとなった。逆に新人は、「精神、気持ち」、「当該行為時の場所」、「気分(イライラ、不安等)」、「身体能力、機能」について重要視している傾向が明らかとなった。

(5) うがいができない事例

認知症の方の事例として、「歯を磨いた後、うがいができず、飲んでしまう」状況にうまく対応するための視点を具体的にあげてもらい、その内容を分類すると以下の状況であった。

①分類後の対応視点別選択率

うがいができない事例に対するアセスメント視点について、指導者と新人の選択項目を比較すると視点項目数については、新人が22項目、指導者が35項目であり、選択率10%以上の項目は新人が4項目、指導者が10項目と、指導者の選択した項目数は多く、指導者の視点が広く選択の幅が広いことを示していると考えられる。(表3-2-29参照)

選択されたアセスメント視点の項目についてみると、介護経験豊富な指導者の視点は、「認知機能(失行、失認、実行機能障害、理解力)」(78.3%)を筆頭に、「認知症の原因疾患、種類」(19.6%)といった認知症関連が上位にあげられ、順に、介護者関連である「職員の対応、声かけ」(32.6%)、本人機能・能力である「嚥下機能」(28.3%)、口腔・歯の状態である「口腔内の状態・疾患」(21.7%)、健康・疾患関連である「健康状態、疾患」(21.7%)、生活歴関連「生活習慣」(19.6%)、うがい方法関連である「当該行為の習慣」(13.0%)、環境面である「施設の総合的環境」(13.0%)、行為の状況である「当該行為の開始時期」(10.9%)となっている。

一方、介護経験の浅い新人では、認知症に関する「認知機能(失行、失認、実行機能障害、理解力)」(51.1%)が最も多く、介護者関連である「職員の対応、声かけ」(33.3%)、健康・疾患面の「水分量」(22.2%)、本人機能・能力である「嚥下機能」(13.3%)の順であげられ、総じて各項目の選択率が指導者を下回っている。(表3-2-29参照)

②対応視点の優先順位

うがいができない事例に対するアセスメント視点について、指導者と新人の優先順位

を比較すると（表3-2-30参照）、指導者では1位「認知機能（失行、失認、実行機能障害、理解力）」、2位「職員の対応、声かけ」、3位「嚥下機能」、4位「口腔内の状態・疾患」と選択率同様の順列で認知様関連、介護者関連、本人機能・能力、口腔・歯の状態に関する事柄が位置づけられる。そして、5位「生活習慣」、6位「健康状態、疾患」、7位「認知症の原因疾患、種類」、8位「当該行為の習慣」、9位「当該行為の開始時期」、10位「施設の総合的環境」の順となっている。

一方、新人では、1位「認知機能（失行、失認、実行機能障害、理解力）」、2位「職員の対応、声かけ」、3位「水分量」、4位「嚥下機能」と選択率同様の序列で認知症関連、介護者関連、健康・疾患関係、本人機能・能力に関する事柄が位置づけられる。

指導者及び新人におけるアセスメント視点の優先順位に関する特徴は（表3-2-30）によると、「認知機能（失行、失認、実行機能障害、理解力）」、「職員の対応、声かけ」、「嚥下機能」、「口腔内の状態・疾患」、「認知症の原因疾患、種類」、「当該行為の習慣」「当該行為の開始時期」、「精神、気持ち」、「水温」はほぼ共通の重要視点である事が示された。

特に指導者の視点として重要な項目は「生活習慣」、「健康状態、疾患」であり新人よりも優先順位が6位以上上位であり、重要視している事が明らかとなった。逆に新人は、「水分量」、「姿勢」、「当該行為時の様子」、「日常の生活状況」、「当該行為に関する経験」について重要視している傾向が明らかとなった。

D. 結論

1. 入浴行為支援に関するアセスメント視点

1) 指導者のエキスパート特性について

本調査対象である認知症介護指導者（エキスパート）における属性の特徴について、介護経験1年未満の新人職員と比較した結果、指導者群は年齢、卒業後経過年数、勤続年数、介護経験年数が新人職員に比較して有意に高いが、教育歴については専門学校卒の割合が両群とも最も高く教育歴について特に大きな差はない事が示唆された。つまり、基本的な知識面での教育状況に大差はないが、年齢や卒業後年数に比例し介護経験が豊富であることが明らかとなった。

認知症介護の経験について指導者群と新人群を比較したところ、認知症介護経験年数、認知症介護実施人数、認知症介護の成功体験の有無、成功体験の頻度について指導者群は新人よりも有意に多いことが示唆された。指導者群における現在の認知症介護実施状況については、新人群に比較して認知症介護を実施した直近日、認知症介護頻度、認知症介護の成功体験直近日について大きな差はなく、本調査におけるエキスパートとしての指導者群が現在も認知症介護を実践している実践者であることが示唆された。

よって、認知症介護のエキスパートとして指導者群が現役であることや、経験が豊富であること、成功体験を多くもっていること等の要件を満たしている事が確認された。

2) 入浴行為支援5事例に関する指導者（エキスパート）のアセスメント特性について

認知症高齢者の入浴場面において日常生活で頻繁に見られる5つの行動事例について認知症介護指導者と新人職員の対応におけるアセスメント視点について、選択率および優先順位を比較したところ、各事例において以下のような傾向がみられた。

(1) 入浴拒否事例

入浴拒否行為に関する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は（表3-1-22参照）、「体調・バイタル」、「気持ち、心理」、「入浴の時間帯」、「認知機能の程度」、「気分」、「排泄状況」、「生活歴、生活様式」、「他の利用者との関係」について重要視しており、共通の視点である事が示された。

指導者の視点として特徴的な項目は「自宅での入浴習慣」、「職員の声かけ」、「介護者の対応」、「入浴室の環境」、「職員との関係」、「性格」、「ものとりれ妄想」、「介護者が誰か」であり、入浴に関する慣習や対応の方法、浴室の環境、介護者との関係性を重視している点であった。

(2) 出浴拒否事例

浴槽から出てこない行動に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は（表3-1-24参照）、「入浴時間」、「湯温」、「病気、既往歴」、「体調・バイタル」、「職員の声かけ」、「介護者の対応」、「表情」、「介護者が誰か」は共通の重要視点である事が示された。

指導者の視点として重要な項目は「自宅での入浴習慣」、「認知機能の程度」、「歩行力、下肢機能」、「気持ち、心理」、「温まり」、「気分」、「介護者の性別」であり、入浴方法に関する慣習と身体機能や同性介護について重視している点が示された。

(3) 入浴介助拒否事例

入浴介助の拒否行動に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は（表3-1-26参照）、「介護者の性別」、「気持ち、心理」、「残存能力（洗身、洗髪）」、「認知機能の程度」、「性格」、「生活歴、生活様式」、「職員との関係」、「入浴の人数」、「職員の声かけ」、「介護者が誰か」、「気分」、「ADL全般」、「過去の入浴体験」、「介護者の対応」、「病気、既往歴」、「体調・バイタル」、「入浴の好み、こだわり」、「認知症の原因疾患」、「会話、コミュニケーション能力」、「入浴拒否の開始時期」、「介護者の服装」と他種類の共通視点が重視されており、両者における視点の差はあまり無いことが示された。

強いて指導者の視点としての特徴を挙げると「自宅での入浴習慣」、「歩行力、下肢機能」、「職員の声かけ」、「介護者が誰か」、「病気、既往歴」、「見当識」、「他の利用者との関係」、「失禁の有無、下着状態」、「入浴の時間帯」、「温泉・銭湯の経験」、「ものとりれ妄想」であり、介護の方法の中でも声のかけ方や、生活歴の中でも自宅における入浴方法について重視しており、体調についても既往歴に着目している点であった。

(4) 洗髪拒否事例

洗髪拒否行動に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点特徴は(表3-1-28参照)、「過去の洗髪習慣」、「過去の入浴体験」、「頭皮の状態」、「洗髪日」、「体調・バイタル」、「性格」、「髪の長さ(状態)」、「職員の声かけ」が共通の重要視点である事が示された。

指導者の視点として特徴的なのは「認知機能の程度」、「生活歴、生活様式」、「過去の洗髪方法」、「職員との関係」、「自宅での入浴習慣」であり洗髪習慣の中でも特に洗い方に関する方法や、入浴自体の習慣、入浴や洗髪に限らない生活全体の習慣、そして職員との関係性を重視しており、過去の行動様式について幅広く捉えようとしている点と、介護者である職員との関係を考慮している点である。

(5) 浴槽の栓抜き事例

浴槽の栓を抜いてしまう行動に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は(表3-1-30参照)、「認知機能の程度」、「自宅での入浴習慣」、「通常時の様子」、「気持ち、心理」、「癖」、「体調・バイタル」、「排泄状況」、「湯量」、「入浴時間」、「入浴順番」、「性格」が共通の視点である事が示された。

指導者の視点として特徴的なのは「生活歴、生活様式」、「入浴中の姿勢」、「職歴」、「栓の構造、形状」、「認知症の原因疾患」であり、特に姿勢や職歴、栓の形状を重視している点が明らかとなった。

3) 入浴行為支援に関するアセスメントの視点について

認知症高齢者の入浴行為への対応に関するアセスメント視点について、5事例全体を通じた特徴は、認知機能の程度や認知症の原因疾患など「認知症の状態に関する事」、疾患やバイタル、皮膚の状態、排泄状況など「体調、身体状況に関する事」、羞恥心や興味関心、気分など「精神、心理に関する事」、ADL、歩行力、食欲など「本人の機能や状態に関する事」、介護者の服装や性別、年齢、人数など「介護者に関する事」、家族、職員、他の利用者など「他者との関係性」、室温、浴槽の形態、浴室環境など「環境面」、入浴習慣、入浴の時間、回数、人数、順番、湯量、温度など「入浴方法や条件」、「過去の生活歴」等が対応の際に留意する視点として選択されていることが明らかとなった。これらの視点は、認知症介護の専門家が経験則から原因を推測し、原因を特定するための必要最低限の確認事項であると考えられる。認知症高齢者の入浴行為への対応に関して必要なアセスメント項目として、普及する必要性があるだろう。

2. 整容行為支援に関するアセスメント視点

1) 指導者のエキスパート特性について

本調査対象である認知症介護指導者(エキスパート)における属性の特徴について、介護経験1年未満の新人職員と比較した結果、指導者群は年齢、卒業後経過年数、勤続年数、介護経験年数が新人職員に比較して有意に高いが、教育歴については専門学校卒の割合が両群とも最も高く教育歴について特に大きな差はない事が示唆された。つまり、基本的な

知識面での教育状況に大差はないが、年齢や卒業後年数に比例し介護経験が豊富であることが明らかとなった。

認知症介護の経験について指導者群と新人群を比較したところ、認知症介護経験年数、認知症介護実施人数、認知症介護の成功体験の有無、成功体験の頻度について指導者群は新人よりも有意に多いことが示唆された。指導者群における現在の認知症介護実施状況については、新人群に比較して認知症介護を実施した直近日、認知症介護頻度、認知症介護の成功体験直近日について大きな差はなく、本調査におけるエキスパートとしての指導者群が現在も認知症介護を実践している実践者であることが示唆された。

よって、認知症介護のエキスパートとして指導者群が現役であることや、経験が豊富であること、成功体験を多くもっていること等の要件を満たしている事が確認された。

2) 整容行為支援に関するエキスパートのアセスメント特性について

認知症高齢者の整容場面において日常生活で頻繁に見られる5つの行動事例について認知症介護指導者と新人職員の対応におけるアセスメント視点について、選択率および優先順位を比較したところ、各事例において以下のような傾向がみられた。

(1) 歯磨き拒否事例

歯磨き拒否行動に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は（表3-2-22参照）、「口腔内の状態・疾患」、「認知機能（失行、失認、実行機能障害、理解力）」、「当該行為の習慣」、「歯ブラシ」、「認知症の原因疾患、種類」、「日常の生活状況」「当該行為の好き嫌い」、「当該行為の時間」が共通の視点である事が示された。

指導者の視点として特徴的なのは「歯の状態、疾患、義歯等」、「精神、気持ち」、「当該行為時の場所」、「当該行為に関する経験」、「興味、関心」を重視しており、新人が身体状況や体調など身体全体の状態を重視しているのに対して、口腔状況だけでなく歯自体の疾患に着目し、場所などの環境視点や、過去の経験、興味関心事などに注目している点である。

(2) 入れ歯拒否事例

入れ歯装着拒否に関する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は（表3-2-24参照）、「口腔内の状態・疾患」、「歯の状態、疾患、義歯等」、「当該行為の習慣」、「認知機能（失行、失認、実行機能障害、理解力）」、「食事量」、「当該行為の開始時期」、「精神、気持ち」、「当該行為に関する経験」、「生活習慣」、「健康状態、疾患」、「羞恥心」、「体重」、「身体能力、機能」、「嚥下機能」、「当該行為の時間」、「当該行為時の場所」が共通の重要視点である事が示された。

指導者の視点として特徴的なのは「職員の対応、声かけ」、「当該行為の習慣」、「日常の生活状況」に着目しており、特に新人と比較すると入れ歯の装着に関する過去の習慣について着目している。

(3) 洗顔拒否事例

洗顔拒否に関する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は（表3-2-26参

照)、「認知機能(失行、失認、実行機能障害、理解力)」、「当該行為の習慣」、「職員の対応、声かけ」、「水への思い」、「精神、気持ち」、「当該行為の開始時期」「健康状態、疾患」、「日常の生活状況」、「当該行為に関する経験」、「洗面台の場所」、「身体能力、機能」、「身体状況」、「聴力」が共通の視点である事が示された。

指導者の特徴的な視点として「生活習慣」、「認知症の原因疾患、種類」、「上肢機能」、「当該行為の方法」、「当該行為時の場所」、「介護者との関係」が挙げられ、洗顔の習慣だけでなく生活全般の習慣に着目している点と、認知症の種類を重要視しており、特に上肢機能を重視している点が特徴的であった。

(4) 耳掃除拒否事例

耳掃除の拒否行動に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は(表3-2-28参照)、「耳の疾患、傷、痛み」、「生活習慣」、「認知機能(失行、失認、実行機能障害、理解力)」、「当該行為に関する経験」、「職員の対応、声かけ」、「性格」「当該行為の好き嫌い」、「当該行為の開始時期」、「介護者との関係」、「認知症の原因疾患、種類」、「当該行為時の様子」、「健康状態、疾患」、「日常の生活状況」、「羞恥心」が共通の視点である事が示された。

指導者の特徴的な視点としては「聴力」、「当該行為の習慣」、「当該行為の方法」、「耳掃除の道具」が挙げられ、特に本人の状況に焦点をあてたアセスメントだけでなく道具に着目している点が示された。

(5) うがいができない事例

うがいができない事に対する指導者及び新人におけるアセスメント視点の特徴は(表3-2-30参照)、「認知機能(失行、失認、実行機能障害、理解力)」、「職員の対応、声かけ」、「嚥下機能」、「口腔内の状態・疾患」、「認知症の原因疾患、種類」、「当該行為の習慣」「当該行為の開始時期」、「精神、気持ち」、「水温」が共通の重要視点である事が示された。

指導者の特徴的な視点としては「生活習慣」、「健康状態、疾患」が挙げられているが、両者の視点に大きな違いは無いことが示唆された。

3) 整容行為支援に関するアセスメントの視点について

認知症高齢者の整容行為への対応に関するアセスメント視点について、5事例全体を通じた特徴は、認知機能の程度や認知症の原因疾患など「認知症の状態に関する事」、疾患やバイタル、顔面の疾患、痛み、汚れなど「疾患、体調、身体状況に関する事」、羞恥心やプライド、気分など「精神、心理に関する事」、ADL、上肢機能、興味関心、性格など「本人の機能や特性に関する事」、職員の対応や声かけなど「介護方法に関する事」、職員、他の利用者など「他者との関係性」、洗面台の場所、形、水温、水質など「環境面」、整容行為の回数、時間、人数、道具、習慣など「方法や慣習、条件に関する事」、「過去の生活歴」等が対応の際に留意する視点として選択されていることが明らかとなった。これらの視点は、認知症介護の専門家が経験則から原因を推測し、原因を特定するための必

要最低限の確認事項であると考えられる。認知症高齢者の整容行為への対応に関して必要なアセスメント項目として、普及する必要があるだろう。

(表 3-1-1) 年齢の平均、標準偏差など

		有効 回答人数	平均年齢	標準偏差	最小値	最大値
全体		84	37.6	13.2	19	65
群別	指導者	44	45.3	10.5	28	65
	新人	40	29.2	10.5	19	60

(平均年齢の t 値) 7.01 (p<0.01)

(表 3-1-2) 性別人数と割合

		人数			割合 (%)		
		有効 回答	男性	女性	有効 回答	男性	女性
全体		87	24	63	100.0	27.6	72.4
群別	指導者	46	13	33	100.0	28.3	71.7
	新人	41	11	30	100.0	26.8	73.2

(χ² 値) 0.02 (p>0.88)

(表 3-1-3) 指導者の修了センター別人数と割合

有効 回答	東京	大府	仙台	非該当
44	14	11	13	6
100.0	31.8	25.0	29.5	13.6

(上段:人、下段:%)

(表 3-1-4) 職名別人数と割合

(人数)

		有効 回答	ケアワーカ ー	相談員	ケアマネ ジャー	看護師	その他
全体		76	36	7	12	5	16
群別	指導者	40	11	7	11	4	7
	新人	36	25	0	1	1	9

(%)

		有効 回答	ケアワーカ ー	相談員	ケアマネ ジャー	看護師	その他
全体		100.0	47.4	9.2	15.8	6.6	21.1
群別	指導者	100.0	27.5	17.5	27.5	10.0	17.5
	新人	100.0	69.4	0.0	2.8	2.8	25.0

(表3-1-5) 役職別人数と割合

(人数)

	有効回答	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	社長	理事長	その他	なし
全体	87	1	10	16	0	0	0	11	49
群別									
指導者	45	1	10	16	0	0	0	11	7
新人	42	0	0	0	0	0	0	0	42

(%)

	有効回答	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	社長	理事長	その他	なし
全体	100.0	1.1	11.5	18.4	0.0	0.0	0.0	12.6	56.3
群別									
指導者	100.0	2.2	22.2	35.6	0.0	0.0	0.0	24.4	15.6
新人	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(表3-1-6) 資格の所有者数と割合

(人数)

	有効回答	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	理学療法士	作業療法士	栄養士	その他
全体	85	10	52	12	31	18	0	0	1	8
群別										
指導者	46	9	31	12	30	3	0	0	0	4
新人	39	1	21	0	1	15	0	0	1	4

(%)

	有効回答	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	理学療法士	作業療法士	栄養士	その他
全体	100.0	11.8	61.2	14.1	36.5	21.2	0.0	0.0	1.2	9.4
群別										
指導者	100.0	19.6	67.4	26.1	65.2	6.5	0.0	0.0	0.0	8.7
新人	100.0	2.6	53.8	0.0	2.6	38.5	0.0	0.0	2.6	10.3

(表3-1-7) 教育歴別人数と割合

(人数)

	有効回答	大学院卒	大学卒	短大卒	専門学校卒	高校卒	その他
全体	91	0	24	8	35	17	0
群別							
指導者	46	0	19	3	15	8	0
新人	45	0	5	5	20	9	0

(%)

	有効回答	大学院卒	大学卒	短大卒	専門学校卒	高校卒	その他
全体	100.0	0.0	26.4	8.8	38.5	18.7	0.0
群別							
指導者	100.0	0.0	41.3	6.5	32.6	17.4	0.0
新人	100.0	0.0	11.1	11.1	44.4	20.0	0.0

(χ²値) 9.06 (p<0.03)

(表3-1-8) 卒業後経過年数の平均、標準偏差など

	有効 回答人数	平均卒業 月数	標準偏差	最小値	最大値
全体	90	178.0	147.8	3	492
群別					
指導者	46	266.2	114.0	35	492
新人	44	85.8	121.0	3	468

(平均月数の t 値) 7.28 (p<0.01)

(表3-1-9) 所属事業種別人数と割合

		(人数)									
	有効 回答	介護老人 福祉施設	介護老人 保健施設	介護療養 型医療施 設	通所介護 事業	通所リハ ビリ事業	訪問介護 事業	認知症対 応型共同 生活介護	小規模多 機能型共 同生活介 護	居宅介護 支援事業 所	地域包括 支援セン ター
全体	88	35	25	3	12	4	4	13	1	12	4
群別											
指導者	46	18	14	1	6	2	3	8	0	7	4
新人	42	17	11	2	6	2	1	5	1	5	0

		市役所	宅老所	特定入居 者生活介 護事業	その他
全体		1	0	2	9
群別					
指導者		0	0	2	7
新人		1	0	0	2

		(%)									
	有効 回答	介護老人 福祉施設	介護老人 保健施設	介護療養 型医療施 設	通所介護 事業	通所リハ ビリ事業	訪問介護 事業	認知症対 応型共同 生活介護	小規模多 機能型共 同生活介 護	居宅介護 支援事業 所	地域包括 支援セン ター
全体	100.0	39.8	28.4	3.4	13.6	4.5	4.5	14.8	1.1	13.6	4.5
群別											
指導者	100.0	39.1	30.4	2.2	13.0	4.3	6.5	17.4	0.0	15.2	8.7
新人	100.0	40.5	26.2	4.8	14.3	4.8	2.4	11.9	2.4	11.9	0.0

		市役所	宅老所	特定入居 者生活介 護事業	その他
全体		1.1	0.0	2.3	10.2
群別					
指導者		0.0	0.0	4.3	15.2
新人		2.4	0.0	0.0	4.8

(表 3-1-10) 勤続年数の平均、標準偏差など

	有効 回答人数	平均所属 月数	標準偏差	最小値	最大値
全体	91	69.0	77.3	1	276
群別					
指導者	46	126.8	70.7	3	276
新人	45	10.0	8.1	1	58

(平均月数の t 値) 11.02 (p<0.01)

(表 3-1-11) 総介護経験年数の平均、標準偏差など

	有効 回答人数	平均介護 月数	標準偏差	最小値	最大値
全体	78	100.5	98.0	2	360
群別					
指導者	42	172.0	79.9	54	360
新人	36	17.0	18.1	2	84

(平均月数の t 値) 11.38 (p<0.01)

(表 3-1-12) 認知症介護指導者経験年数の平均、標準偏差など

有効 回答人数	平均指導 者経験月 数	標準偏差	最小値	最大値
38	38.6	22.8	3	84

(表 3-1-13) 認知症介護経験年数の平均、標準偏差など

	有効 回答人数	平均認知 症介護経 験月数	標準偏差	最小値	最大値
全体	86	81.8	80.0	2	288
群別					
指導者	46	141.5	64.2	23	288
新人	40	13.1	12.1	2	64

(平均月数の t 値) 12.44 (p<0.01)

(表 3-1-14) 認知症介護直近日の平均、標準偏差など

	有効 回答人数	平均認知 症介護直 近日	標準偏差	最小値	最大値
全体	80	9.9	48.8	0	330
群別					
指導者	45	15.0	63.5	0	330
新人	35	3.5	15.1	0	90

(平均日数の t 値) 1.04 (p>0.29)

(表 3-1-15) 認知症介護頻度別人数と割合

(人数)

		有効 回答人数	毎日	週に数回	月に数回 (直接の関 わりのみ)	年に数回	しばらくし ていない
全体		84	50	28	3	0	3
群別	指導者	45	26	14	3	0	2
	新人	39	24	14	0	0	1

(%)

		有効 回答人数	毎日	週に数回	月に数回 (直接の関 わりのみ)	年に数回	しばらくし ていない
全体		100.0	59.5	33.3	3.6	0.0	3.6
群別	指導者	100.0	57.8	31.1	6.7	0.0	4.4
	新人	100.0	61.5	35.9	0.0	0.0	2.6

(表 3-1-16) 認知症介護頻度の平均得点

		有効 回答人数	認知症介 護頻度平 均(注)	標準偏差	最小値	最大値
全体		84	4.5	0.9	1	5
群別	指導者	45	4.4	1.0	1	5
	新人	39	4.5	0.8	1	5

(平均日数の t 値) -0.84 ($p>0.40$)

(注)「毎日」(5点)～「しばらくしていない」(1点)のウェイト平均

(表 3-1-17) 認知症介護人数の平均値、標準偏差など

		有効 回答人数	平均認知 症介護実 施人数	標準偏差	最小値	最大値
全体		71	106.3	156.7	1	1,000
群別	指導者	37	170.9	195.3	3	1,000
	新人	34	35.9	26.1	1	100

(平均月数の t 値) 3.99 ($p<0.01$)

(表 3-1-18) 認知症介護成功体験の有無別人数と割合

		人数			割合 (%)		
		有効 回答	ある	全くない	有効 回答	ある	全くない
全体		87	79	8	100.0	90.8	9.2
群別	指導者	46	45	1	100.0	97.8	2.2
	新人	41	34	7	100.0	82.9	17.1

(χ² 値) 5.76 ($p<0.02$)

(表3-1-19) 認知症介護成功体験の頻度別人数と割合

(人数)

	有効回答 (注)	まれに経験した(今までに数回)	たまに経験した(年に数回くらい)	ときどき経験した(月に数回くらい)	よく経験した(週に数回くらい)	いつも経験した(毎日)	ほぼ全ての介護で経験した
全体	75	12	10	27	22	3	1
群別 指導者	43	4	7	16	14	2	0
新人	32	8	3	11	8	1	1

(%)

	有効回答 (注)	まれに経験した(今までに数回)	たまに経験した(年に数回くらい)	ときどき経験した(月に数回くらい)	よく経験した(週に数回くらい)	いつも経験した(毎日)	ほぼ全ての介護で経験した
全体	100.0	16.0	13.3	36.0	29.3	4.0	1.3
群別 指導者	100.0	9.3	16.3	37.2	32.6	4.7	0.0
新人	100.0	25.0	9.4	34.4	25.0	3.1	3.1

(χ²値) 5.33 (p>0.37)

(注) 認知症介護成功体験のある人のみ

(表3-1-20) 認知症介護成功体験の直近日

	有効回答人数	最近 (注)	最遠	中央値
全体	67	0	365	7
群別 指導者	37	1	365	7
新人	30	0	30	7

(注) 認知症介護成功体験のある人のみ

最近の「0」は本日を意味します

(表3-1-21) 入浴拒否事例における対応視点別選択率比較 (その1)

新人			選択率 順位	指導者		
人数 (N=42)	選択割合	視点項目		視点項目	選択割合	人数 (N=62)
18	42.9	体調・バイタル	1	体調・バイタル	35.5	22
12	28.6	気持ち、心理	2	気持ち、心理	33.9	21
11	26.2	過去の入浴体験	3	自宅での入浴習慣	32.3	20
8	19.0	認知機能の程度	4	入浴の時間帯	29.0	18
8	19.0	入浴の好み、こだわり	5	認知機能の程度	27.4	17
6	14.3	入浴の時間帯	6	職員の声かけ	19.4	12
5	11.9	入浴拒否の開始時期	7	介護者の対応	17.7	11
4	9.5	職員の声かけ	8	過去の入浴体験	16.1	10
4	9.5	介護者の対応	9	気分	14.5	9
4	9.5	気分	10	入浴室の環境	14.5	9
4	9.5	排泄状況	11	入浴の好み、こだわり	12.9	8
4	9.5	他の利用者との関係	12	職員との関係	12.9	8
4	9.5	介護者の性別	13	排泄状況	11.3	7
4	9.5	通常時の様子	14	病気、既往歴	9.7	6
3	7.1	病気、既往歴	15	生活歴、生活様式	9.7	6
3	7.1	生活歴、生活様式	16	他の利用者との関係	8.1	5
3	7.1	着替える能力	17	性格	8.1	5
3	7.1	皮膚の状態	18	ものとり妄想	8.1	5
3	7.1	室温	19	介護者の性別	6.5	4
3	7.1	ADL全般	20	興味、関心	6.5	4
2	4.8	自宅での入浴習慣	21	着替える能力	4.8	3
2	4.8	入浴室の環境	22	介護者が誰か	4.8	3
2	4.8	職員との関係	23	自宅での浴室環境	4.8	3
2	4.8	性格	24	洗髪への反応	4.8	3
2	4.8	失禁の有無、下着状態	25	入浴の人数	4.8	3
1	2.4	ものとり妄想	26	認知症の原因疾患	4.8	3
1	2.4	介護者が誰か	27	入浴拒否の開始時期	3.2	2
1	2.4	入浴回数	28	皮膚の状態	3.2	2
1	2.4	湯温	29	清潔状態	3.2	2
1	2.4	歩行力、下肢機能	30	通常時の様子	1.6	1
1	2.4	温泉・銭湯の経験	31	室温	1.6	1
1	2.4	入浴順番	32	失禁の有無、下着状態	1.6	1
1	2.4	脱い	33	入浴回数	1.6	1
7	16.7	分類不能	34	湯温	1.6	1
0	0.0	興味、関心	35	歩行力、下肢機能	1.6	1
0	0.0	自宅での浴室環境	36	介護拒否の有無	1.6	1
0	0.0	洗髪への反応	37	性別	1.6	1
0	0.0	入浴の人数	38	食欲	1.6	1
0	0.0	認知症の原因疾患	39	会話、コミュニケーション能力	1.6	1
0	0.0	清潔状態	40	生理	1.6	1

*備考:新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率10%以上の項目で、新人の選択率10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体(条件は上と同様)

(続く)

(表 3-1-21) 入浴拒否事例における対応視点別選択率比較 (その2)

新人		視点項目	選択率 順位	指導者		
人数 (N=42)	選択割 合			視点項目	選択割 合	人数 (N=62)
0	0.0	介護拒否の有無	41	麻痺の有無	1.6	1
0	0.0	性別	42	着替えのストック	1.6	1
0	0.0	食欲	43	介護者の人数	1.6	1
0	0.0	会話、コミュニケーション能力	44	家族との関係	1.6	1
0	0.0	生理	45	趣味	1.6	1
0	0.0	麻痺の有無	46	浴槽の形状	1.6	1
0	0.0	着替えのストック	47	シャワーかどうか	1.6	1
0	0.0	介護者の人数	48	分類不能	6.5	4
0	0.0	家族との関係	49	ADL 全般	0.0	0
0	0.0	趣味	50	温泉・銭湯の経験	0.0	0
0	0.0	浴槽の形状	51	入浴順番	0.0	0
0	0.0	シャワーかどうか	52	眠い	0.0	0

* 備考: 新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率 10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率 10%以上の項目で、新人の選択率 10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体(条件は上と同様)

(表3-1-22) 入浴拒否事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
体調・バイタル	1	体調・バイタル
自宅での入浴習慣	2	気持ち、心理
気持ち、心理	3	過去の入浴体験
入浴の時間帯	4	認知機能の程度
認知機能の程度	5	入浴の好み、こだわり
職員の声かけ	6	入浴の時間帯
介護者の対応	7	入浴拒否の開始時期
気分	8	通常時の様子
過去の入浴体験	9	病気、既往歴
入浴の好み、こだわり	10	排泄状況
入浴室の環境	11	気分
職員との関係	12	介護者の対応
排泄状況	13	職員の声かけ
生活歴、生活様式	14	介護者の性別
病気、既往歴	15	皮膚の状態
性格	16	他の利用者との関係
他の利用者との関係	17	生活歴、生活様式
興味、関心	18	室温
ものとり妄想	19	ADL全般
介護者の性別	20	着替える能力
自宅での浴室環境	21	自宅での入浴習慣
入浴の人数	22	職員との関係
認知症の原因疾患	23	失禁の有無、下着状態
介護者が誰か	24	性格
洗髪への反応	25	入浴回数
入浴拒否の開始時期	26	歩行力、下肢機能
皮膚の状態	27	入浴室の環境
清潔状態	28	温泉・銭湯の経験
着替える能力	29	入浴順番
入浴回数	30	眠い
性別	31	介護者が誰か
会話、コミュニケーション能力	32	湯温
歩行力、下肢機能	33	ものとり妄想
浴槽の形状	34	
室温	35	
通常時の様子	36	
失禁の有無、下着状態	37	
趣味	38	
食欲	39	
家族との関係	40	
シャワーかどうか	41	
湯温	42	
介護拒否の有無	43	
麻痺の有無	44	
介護者の人数	45	
生理	46	
着替えのストック	47	

備考：* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以下下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

(表3-1-23) 出浴拒否事例における対応視点別選択率比較

新人		選択率 順位	指導者		
人数 (N=42)	選択割合		視点項目	選択割合	人数 (N=46)
16	38.1	1	入浴時間	50.0	23
13	31.0	2	湯温	47.8	22
10	23.8	3	自宅での入浴習慣	28.3	13
6	14.3	4	認知機能の程度	28.3	13
6	14.3	5	病気、既往歴	21.7	10
6	14.3	6	体調・バイタル	19.6	9
5	11.9	7	職員の声かけ	17.4	8
5	11.9	8	歩行力、下肢機能	17.4	8
4	9.5	9	気持ち、心理	15.2	7
4	9.5	10	入浴室の環境	15.2	7
3	7.1	11	室温	13.0	6
3	7.1	12	介護者の対応	8.7	4
3	7.1	13	温まり	8.7	4
3	7.1	14	気分	8.7	4
3	7.1	15	表情	6.5	3
2	4.8	16	ADL全般	6.5	3
2	4.8	17	意識・判断力の確認	6.5	3
1	2.4	18	歩行力、下肢機能	6.5	3
1	2.4	19	気持ち、心理	6.5	3
1	2.4	20	認知症の原因疾患	4.3	2
1	2.4	21	介護者の性別	4.3	2
1	2.4	22	過去の入浴体験	4.3	2
1	2.4	23	興味、関心	4.3	2
1	2.4	24	入浴の好み、こだわり	2.2	1
1	2.4	25	寒がり・冷え性	2.2	1
1	2.4	26	排泄状況	2.2	1
1	2.4	27	浴槽の形状	2.2	1
1	2.4	28	天気・気候	2.2	1
6	14.3	29	湯量	2.2	1
0	0.0	30	会話、コミュニケーション能力	2.2	1
0	0.0	31	生活歴、生活様式	2.2	1
0	0.0	32	分類不能	8.7	4
0	0.0	33	湯当たり	0.0	0
0	0.0	34	意識・判断力の確認	0.0	0
0	0.0	35	入浴回数	0.0	0
0	0.0	36	入浴の人数	0.0	0
0	0.0	37	他の利用者との関係	0.0	0

* 備考：新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率10%以上の項目で、新人の選択率10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体(条件は上と同様)

(表 3-1-24) 出浴拒否事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
入浴時間	1	入浴時間
湯温	2	湯温
自宅での入浴習慣	3	室温
認知機能の程度	4	体調・バイタル
病気、既往歴	5	湯当たり
体調・バイタル	6	入浴の好み、こだわり
歩行力、下肢機能	7	職員の声かけ
気持ち、心理	8	病気、既往歴
職員の声かけ	9	介護者の対応
入浴室の環境	10	自宅での入浴習慣
室温	11	ADL全般
温まり	12	認知機能の程度
介護者の対応	13	表情
気分	14	寒がり・冷え性
表情	15	認知症の原因疾患
ADL全般	16	意識・判断力の確認
趣味	17	排泄状況
入浴の時間帯	18	入浴回数
介護者が誰か	19	介護者が誰か
過去の入浴体験	20	温まり
介護者の性別	21	浴槽の形状
興味、関心	22	天気・気候
認知症の原因疾患	23	気分
生活歴、生活様式	24	歩行力、下肢機能
入浴の好み、こだわり	25	入浴の人数
会話、コミュニケーション能力	26	気持ち、心理
湯量	27	他の利用者との関係
排泄状況	28	介護者の性別
寒がり・冷え性	29	
浴槽の形状	30	
天気・気候	31	

備考：* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以下下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

(表3-1-25) 入浴介助拒否事例における対応視点別選択率比較

新人		視点項目	選択率 順位	指導者		
人数 (N=40)	選択割合			視点項目	選択割合	人数 (N=46)
10	25.0	介護者の性別	1	介護者の性別	41.3	19
9	22.5	気持ち、心理	2	気持ち、心理	32.6	15
9	22.5	性格	3	残存能力(洗身、洗髪)	28.3	13
8	20.0	残存能力(洗身、洗髪)	4	認知機能の程度	26.1	12
7	17.5	認知機能の程度	5	性格	23.9	11
5	12.5	生活歴、生活様式	6	生活歴、生活様式	17.4	8
5	12.5	職員との関係	7	自宅での入浴習慣	15.2	7
4	10.0	入浴の人数	8	職員との関係	13.0	6
4	10.0	介護拒否の有無	9	歩行力、下肢機能	13.0	6
3	7.5	過去の入浴体験	10	入浴の人数	10.9	5
3	7.5	介護者の対応	11	職員の声かけ	10.9	5
3	7.5	湯温	12	介護者が誰か	10.9	5
3	7.5	介助認識の欠如	13	介護拒否の有無	8.7	4
3	7.5	室内危険因子	14	過去の入浴体験	8.7	4
2	5.0	職員の声かけ	15	介護者の対応	8.7	4
2	5.0	介護者が誰か	16	湯温	6.5	3
2	5.0	気分	17	気分	6.5	3
2	5.0	ADL 全般	18	ADL 全般	6.5	3
2	5.0	認知症の原因疾患	19	病気、既往歴	6.5	3
2	5.0	排泄状況	20	入浴の好み、こだわり	4.3	2
1	2.5	自宅での入浴習慣	21	体調・バイタル	4.3	2
1	2.5	病気、既往歴	22	ものどられ妄想	4.3	2
1	2.5	入浴の好み、こだわり	23	見当識	4.3	2
1	2.5	体調・バイタル	24	失禁の有無、下着状態	4.3	2
1	2.5	入浴拒否の開始時期	25	他の利用者との関係	4.3	2
1	2.5	皮膚の状態	26	介助認識の欠如	2.2	1
1	2.5	会話、コミュニケーション能力	27	室内危険因子	2.2	1
1	2.5	介護者の服装	28	認知症の原因疾患	2.2	1
1	2.5	入浴室の環境	29	排泄状況	2.2	1
1	2.5	通常時の様子	30	入浴拒否の開始時期	2.2	1
1	2.5	清潔状態	31	皮膚の状態	2.2	1
5	12.5	分類不能	32	会話、コミュニケーション能力	2.2	1
0	0.0	歩行力、下肢機能	33	介護者の服装	2.2	1
0	0.0	ものどられ妄想	34	入浴室の環境	2.2	1
0	0.0	見当識	35	入浴の時間帯	2.2	1
0	0.0	失禁の有無、下着状態	36	温泉・銭湯の経験	2.2	1
0	0.0	他の利用者との関係	37	着替える能力	2.2	1
0	0.0	入浴の時間帯	38	介護者の年齢	2.2	1
0	0.0	温泉・銭湯の経験	39	介護者の人数	2.2	1
0	0.0	着替える能力	40	趣味	2.2	1
0	0.0	介護者の年齢	41	分類不能	17.4	8
0	0.0	介護者の人数	42	通常時の様子	0.0	0
0	0.0	趣味	43	清潔状態	0.0	0

* 備考: 新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率 10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率 10%以上の項目で、新人の選択率 10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択している、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体(条件は上と同様)

(表3-1-26) 入浴介助拒否事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
介護者の性別	1	介護者の性別
気持ち、心理	2	性格
残存能力(洗身、洗髪)	3	気持ち、心理
認知機能の程度	4	認知機能の程度
性格	5	残存能力(洗身、洗髪)
生活歴、生活様式	6	生活歴、生活様式
自宅での入浴習慣	7	職員との関係
職員との関係	8	介護拒否の有無
歩行力、下肢機能	9	室内危険因子
入浴の人数	10	湯温
職員の声かけ	11	介助認識の欠如
介護者が誰か	12	過去の入浴体験
気分	13	入浴の人数
ADL全般	14	介護者の対応
過去の入浴体験	15	気分
湯温	16	認知症の原因疾患
介護拒否の有無	17	ADL全般
介護者の対応	18	職員の声かけ
病気、既往歴	19	排泄状況
見当識	20	介護者が誰か
他の利用者との関係	21	自宅での入浴習慣
体調・バイタル	22	皮膚の状態
失禁の有無、下着状態	23	会話、コミュニケーション能力
入浴の好み、こだわり	24	体調・バイタル
認知症の原因疾患	25	清潔状態
会話、コミュニケーション能力	26	入浴の好み、こだわり
入浴の時間帯	27	入浴拒否の開始時期
入浴拒否の開始時期	28	病気、既往歴
温泉・銭湯の経験	29	通常時の様子
ものとり妄想	30	入浴室の環境
介護者の服装	31	介護者の服装
趣味	32	
排泄状況	33	
着替える能力	34	
介助認識の欠如	35	
皮膚の状態	36	
室内危険因子	37	
介護者の人数	38	
介護者の年齢	39	
入浴室の環境	40	

備考：* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以下下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ